

オンライン研究プラットフォーム BOLD

— 発達科学における研究協力者と研究者の新たな連携モデル —

加藤 正晴¹, 土居 裕和², 孟 憲巍³, 村上 太郎⁴, 梶川 祥世⁵, 大谷 多加志⁶, 上原 泉⁷, 箕浦 有希久⁸

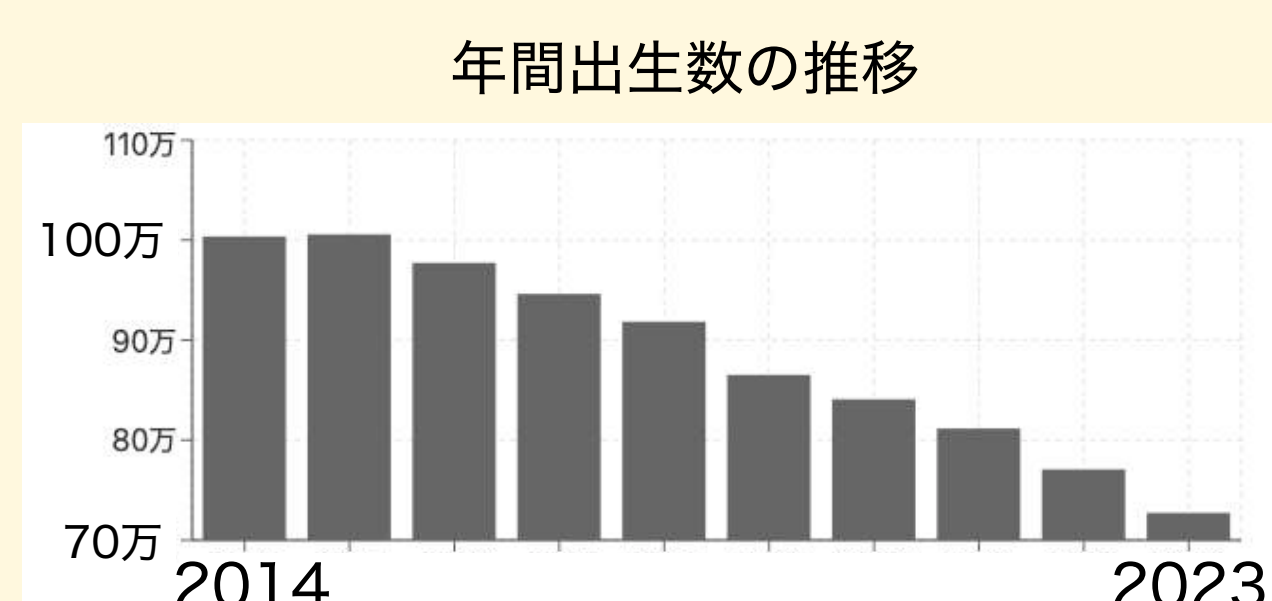
(1) 同志社大学 (2) 長岡技術科学大学 (3) 名古屋大学 (4) 常葉大学 (5) 玉川大学 (6) 京都光華女子大学 (7) お茶の水女子大学 (8) 佛教大学

はじめに

コロナ禍以降、オンラインによる調査は一般的な研究手法となった。しかし対面調査と比べても実施に負担を感じることも多い。こうした負担を取り除き、研究者および研究協力者が共に満足 of いく研究環境を実現することが必要ではないか

現在の発達研究の課題

- ・人口減少(2023年の出生数は72.3万人)
- ・赤ちゃん研究員リクルート・維持の困難さ
- ・大きなサンプルサイズ要求
- ・サンプルの偏り問題(大都市圏偏重)



BOLDとは

ねらい

- ・発達研究者のリクルートコストの低減
- ・乳幼児発達研究の普及
- ・新たな形の縦断研究の創出

特徴

- ・参加者の募集、調査補助を実施
- ・既存のパネル会社と異なり、乳児の登録が多い
- ・オンラインアンケート、オンライン実験環境を整備

BOLDが提案する解決策

全国規模の研究協力者プールの共有：

2025年2月現在で約1000名、34都道府県

リクルートシステムの共有：

研究者は参加者リクルートをしなくて良い

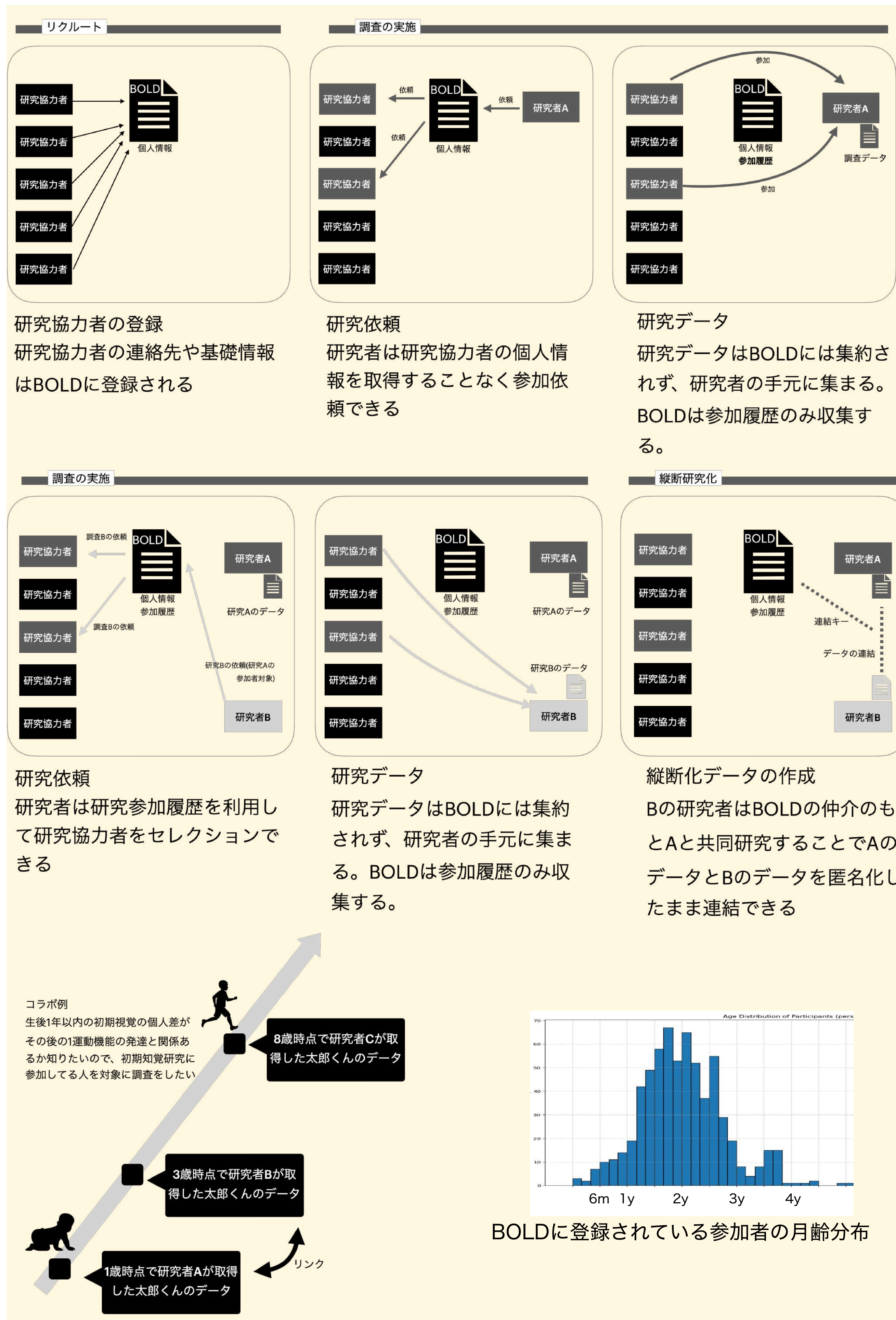
個人情報のBOLDへの一元化：

研究者は個人情報の管理から解放される

新しい形の縦断研究：

研究者間の連携による効率的な縦断研究の実現

BOLDの仕組み



実施研究例

コア研究

- ・気質と乳幼児発達スケールの相互作用研究

個別研究

- ・乳児の色選好の性差研究(zoomを用いた選好注視法)
 - ・Mooney faceを用いた乳児の顔知覚の発達(タブレット送付法)
 - ・イヤイヤ期の子どもへの対処法 (オンラインアンケート法)
- など...

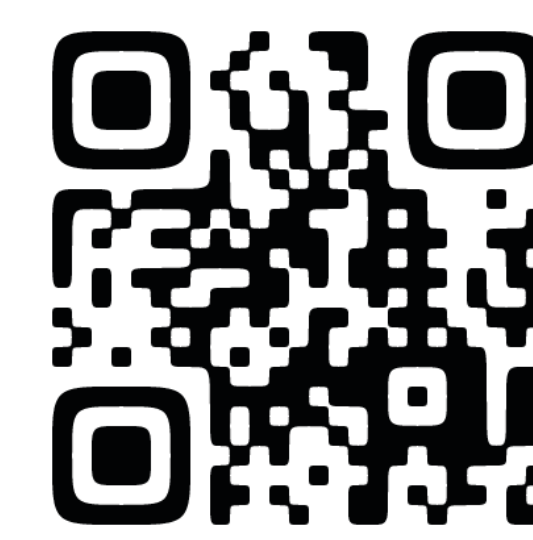
今後の展望

研究協力者と研究者の段階的な拡大

共同研究の実施

保護者視点から始まる調査の企画と実施

海外研究者の受け入れ



BOLD紹介サイト

BOLDは現在、非営利型の一般社団法人子どもと育ちのコホート研究・実践協会により運営されています。BOLDを利用したい研究者は左記法人にご入会の上、利用していただくことになります。



References

Kato, M., Doi, H., Meng, X., Murakami, T., Kajikawa, S., Otani, T., & Itakura, S. (2021). Baby's Online Live Database: An Open Platform for Developmental Science. *Frontiers in Psychology*, 12. doi:10.3389/fpsyg.2021.729302

加藤正晴, 土居裕和, 孟憲巍, 村上太郎, 梶川祥世, 大谷多加志, 上原泉, 箕浦有希久. (2024). Baby's Online Live Database によるオンライン縦断研究. *心理学評論*, 67(1), 95-108.